

予 算 要 求 資 料

令和7年度3月補正予算

支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：主要農作物対策費

事業名【新】県産米の生産性向上対策事業費（R8分）

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 農産園芸課 米麦大豆係 電話番号：058-272-1111(内4118)

E-mail : c11423@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 補正要求額 2,873千円 (現計予算額： 0千円)

<財源内訳>

区分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使 用 料 手数料	財 産 入	寄 附 金	そ の 他	県 債	一 般 財 源
現 計 予算額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
補 正 要求額	2,873	644	0	0	0	0	0	0	2,229
決定額	2,873	644	0	0	0	0	0	0	2,229

2 要求内容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

本県の水稻の10a当たり収量（以下、単収）は全国平均と比べると低く、単収を向上すれば食料自給率向上に寄与することができる。

このため、単収向上のための取組みや温暖化対策、環境の変化を活かした温暖化を逆手にとった技術実証や調査、品質向上対策を行う必要がある。

また、県育成酒造好適米「酔むすび」については、令和6年度からお酒づくりに使用され販売が始まったものの、現地での栽培年数が少ないとから実需者の求める量や品質の生産が十分にできていない。

(2) 事業内容

ア 単収向上の技術実証

- ・現地ほ場において「清流のめぐみ」や「ハツシモ岐阜SL」単収向上肥料試験
- ・多収米コンテストの開催

イ 温暖化対策と温暖化を逆手にとったの技術実証

- ・高温対策研修会の開催（5回）
- ・栽培適期拡大による再生二期作や直播栽培の技術実証、中山間地域における温暖化適応の取組みの検討

ウ 「酔むすび」の生産性向上の取組み

- ・生産者と行政等で組織する研究会の運営を通じて、県育成新酒米「酔むすび」の安定生産と品質向上を図る取組みを支援

(3) 県負担・補助率の考え方

食料自給率向上や地球温暖化対策として県負担は妥当。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	216	研修会講師謝礼
旅費	768	業務旅費、費用弁償
需用費	590	実証消耗品費（401）、調査燃料費（189）
役務費	365	郵便料、電話料、機器メンテナンス料
委託料	796	多収米コンテスト
使用料	138	会議室使用料
合計	2,873	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

ぎふ農業活性化基本計画（仮称・令和8年3月策定予定）

基本方針2「潜在力をフル活用した生産強化」

「食料・農業・農村基本計画」（令和7年4月11日閣議決定）

第4 食料、農業及び農村に関し総合的かつ計画的に講ずべき施策

(2) 国・他県の状況

なし

(3) 後年度の財政負担

食料自給率向上のため、生産性向上や温暖化対策の取組みは重要であり、引き続き県が負担する。

(4) 事業主体及びその妥当性

事業主体：県

食料自給率向上に関わる内容であり、県が主導して取り組むことは妥当。

事 業 評 價 調 書 (県単独補助金除く)

<input checked="" type="checkbox"/> 新規要求事業
<input type="checkbox"/> 継続要求事業

1 事業の目標と成果

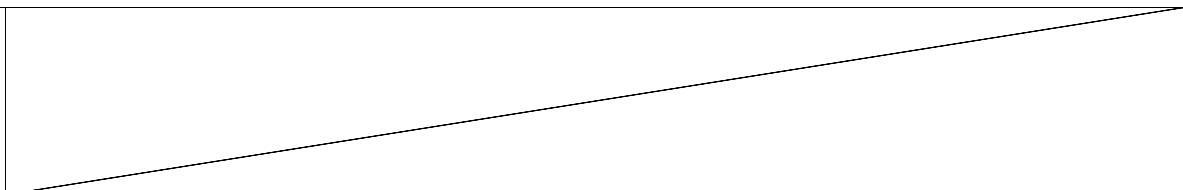
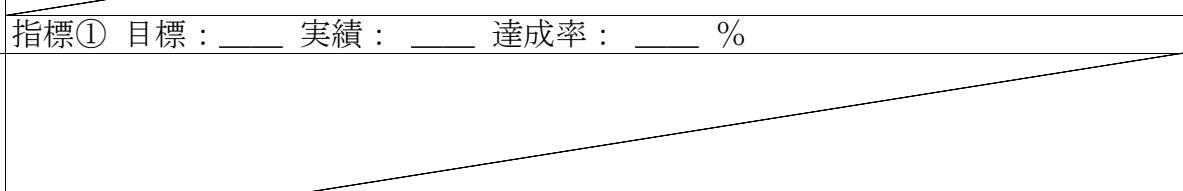
(事業目標)

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
本県の水稻の10a当たり収量を令和11年までに10%向上させる。

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (R6)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R10)	達成率
水稻の10a当たり 収量・岐阜県	483	483	483	487	492	—

(これまでの取組内容と成果)

令和 4 年 度	 指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %
令和 5 年 度	 指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %
令和 6 年 度	 指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)

3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない

(評価) 3	需要に応じた米の増産が求められるなか、単収を向上させることや、地球温暖化による水稻の生育環境の変化に対応した栽培方法を確立普及することが必要である。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)	3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない
(評価)	

・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)

2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている

(評価)	
------	--

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項

実証結果に基づく增收技術の確立と単収向上に向けた作付品種や栽培方法の転換が必要である。

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか

単収向上に向けた現地実証ほの現地検討会や研修会を通じて、新品種や新技術をしらべる機会を設けるとともに、実証結果をまとめ、地域に普及推進を行う。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	
組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など	